

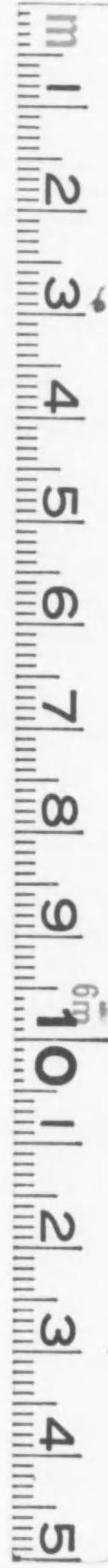
特251

639

素人演劇運動の  
の理念と方策

大政翼賛會文化部編

翼賛圖書刊行會發行



始



11257

839

# 素人演劇運動 の理念と方策

大政翼賛會文化部編輯

翼賛圖書刊行會發行



特251  
639



---

---

素人演劇運動の理念と方策

---

---

大政翼賛會文化部編



株式會社

翼賛圖書發行會發行



— 次 目 —

素人演劇運動の理念 ..... 一  
素人演劇運動の方策 ..... 元  
一、組織 ..... 三  
二、活動方法 ..... 四  
三、脚本の擇び方 ..... 四  
四、演劇指導者 ..... 四  
五、經費 ..... 五  
附録 素人演劇用脚本 ..... 五

序

素人演劇には良いものと悪いものがある。良いわるいは何を標準にしてきめるかと云へば、決して素人藝のいはゆる「上手下手」ではない。「素人ばなれがしてゐる」とか、「女人はだした」とかいふのは、必ずしも正しい意味での値打にはならないのである。役者が商賣といふのでなく、たゞ暇な時に仲間同志が集つて芝居をやるといふことは、ごく自然な人間の遊戯本能であつて、これを芝居の眞似と考へるべきではない。

素人演劇の魅力ある健全なすがたは、そもそも「芝居」といふものが今日のやうに職業化してしまはない以前の、素朴な、潤達な、衆と共に勵み楽しむ生活の精神と表現のなかにあるのである。

近頃、農村や工場で素人演劇が盛に行はれる風があり、十分いい結果をあげ



てゐる一面、なかにはいろいろな點で弊害を生みさうな徴候がみえないでもないので、こゝに關係當局とも計り、とりあへず一般の心得となり手引となるべき要目を提示することにした。本書の記述は多少演劇の専門知識を基礎としなければ理解しにくいところがあるかも知れないが、主として各職場における指導的立場にある人々を對象として書かれたのであつて、文化運動乃至は厚生施策として素人演劇の眞の意義と價値について、指導者としては少くともこれくらいの徹底した考へをもつてもらひたいと思ふ。

昭和十七年三月

大政翼賛會文化部長

岸 田 國 士

### 素人演劇運動の理念

現在の非常時局が、文化運動に課してゐる使命には二つの面がある。一つは戦時下の國民生活の向上刷新に寄與し、その生活力を培養するといふことであり、その二つは現代の日本文化を一新して、名實ともに東亞の諸民族を指導することが出来るやうな、雄渾で高雅な新國民文化を建設するといふことである。この二つの面が不可分な一體をなしてゐることは、最早やこゝに説く必要はないと思ふ。

文化の一翼を形造つてゐる演劇の改革も、上に述べたやうな線に沿つてなされるべきであり、それは言ひ換へれば、國民が擧つて、その創造にも享受にも參



加出来るやうな國民演劇を樹立するといふことに外ならないのであるが、素人演劇運動の使命は、またおのづから特殊なものがある。即ち先に掲げた國民の生活を強化するといふ文化運動の第一目的が、その主要且つ直接の使命であつて、國民演劇の樹立といふことは、その直接目標ではない。といつて素人演劇運動が、國民演劇の建設に全く無關係だといふのではない。それは國民の演劇に對する關心を高め、演劇を樂しむと同時にこれを自ら創造する習慣と能力とを培ひ、素材においても表現においても全く新しい演劇の分野を開拓するのであらうが、そのことがつまり國民演劇建設の地盤ともなり、源泉ともなるのである。その意味において素人演劇は藝術運動の性格を獲得し、將來の演劇に貢獻するのであらうが、それはこの運動の副次的な役割であり、國民演劇に寄與するとしても間接的に役立つのである。

このやうな使命と性格とを持つた素人演劇運動の理念を掲げると次のやうに

なる。

一、素人演劇運動は生活を豊かな、潤ひのある、美しいものにして、國民の生活力を培養するための運動である。

現代の戦争が尤大な物的並びに人的資源を必要とするものである限り、生産力の擴充といふことは、高度國防國家建設の基本的命題たらざるをえない。これが高々二三ヶ月間の勞働の強化によつて達成しうる生産の増加であるならば徹夜をして働らき通しても、さほど國民の健康や心理に及ぼす影響を危惧するには當らないが、今時局が要求してゐるのは、殆ど永久的な性質を帯びた生産擴充である。この重い使命を圓滿に遂行するためには、活動力の持続に必要な休養と娛樂の方法を考へなければならぬであらう。

それがためには、生活全面に亘つての最も能率的、健康的な建て直しを企てる一方、勤勞を基礎とする日常生活のよろこび、殊に、集團生活の親和的空氣



より生れる明朗潤達な藝能行事の如きは、仕事が忙がしければ忙がしいほど有意義な事柄となつて來るのである。

休養には色々な手段が考へられる。先づ第一に睡眠——これは基本的な休養であつてどうしても缺くことの出來ないものである。併し食事には米やパンなどの主食物の外に副食物が必要であるやうに、休養にも睡眠の外に娛樂や旅行が必要である。「働らいて、働らいて寝ることだけが楽しみだ」といつたやうな農村の状態は、決して健全であるといふことが出來ず、この農村が現在増産の實を擧げてゐるとしても、長期に亘つて生産水準を維持しうるとは考へられない。農村や工場の勞務者に健全な娛樂を與へよといふ叫びは、かうしたところから起つて來た。

併し何を標準にして娛樂を健全とか不健全とか色分けするのであらうか？  
勞働に疲れた心身を休め、明日の力を恢復することが健全娛樂の根本條件には

違ひないが、單にそれだけであるならば、どんな娛樂だつてその位の役目は果してゐる。健全な娛樂は更に進んでわれわれの生活そのものを向上させ、明日の力を養ふばかりでなく、明後日の力をも、一生の力をも培ふやうなものでなければならぬ。言ひ換へれば、生活全體に希望と潤ひを漲らせ、われわれの體力と精神力を涵養し、人格を陶冶して、立派な日本人を造るやうな娛樂であつてこそ、始めて健全な理想的な娛樂だといふことが出來るのである。もう一度言葉を換へて言ふならば、われわれを爽やかに楽しませると同時に、たくましく力づけ、日本人としての心を豊かにするやうな娛樂が健全娛樂なのである。

娛樂と總稱されるもの、中には幾つかの種類がある。演劇や映畫はいふまでもないが、將棋や碁のやうに室内で楽しむものもあれば、スポーツのやうに野外で行ふものもある。讀書のやうに獨り楽しむものもあれば、合唱のやうに大勢で一緒になつて行ふものもある。盆踊りのやうに傳統的な、郷土色豊かなも



のもあれば、寫眞のやうに全く近代の發明によつて始めて誕生したものである。

日本人は從來勤勞と娛樂とを切り離して考へてゐたために、この兩者の正しい配分と結合とを圖ることが極めて拙劣であつた。この點が近頃段々に反省されるやうになつたことは喜ばしい限りであるが、更に一步を進めて、今度は色色な娛樂の配合を學ぶ必要があると思はれる。われわれの體を養ふに十分な榮養を攝取するためには、偏食を避け、混食を行ふ必要があるのと同じやうに、娛樂も一つに偏することなく、色々なものを樂しむ必要がある。體力を養ふスポーツも、思考力を養ふ讀書も、情操を養ふ音樂や美術も、等しく味はふのがよい。一つの娛樂がどういふ方面の効用を持つかを考へて、それらを巧みに組み合せるのが、われわれの生活を健全にしてゆく所以である。

色々な娛樂を配合することを學ぶ必要は、娛樂に入用な物資が段々に不足を告げて來てゐるといふ點からも要請されてゐる。映畫に必要なフィルムも、出

版に必要な紙も、スポーツ用品の製造に必要な皮革や金屬類も、何もかも不足を告げてゐる現在、或る一つの娛樂に執着してゐたら、われわれはきつと娛樂の榮養不良になり、生活力の減退を來すのは火を見るより明らかである。

素人演劇は數ある娛樂手段の一つで、その目的とするところは、他の娛樂のそれと異なるものではない。即ちわれわれの生活を豊かな、潤ひのある、美しいものにして、われわれの生活力を培ふといふのがその本旨である。

勿論素人演劇は單なる娛樂ではなくて、同時にわれわれの教養を高め、情操を養ひ、人格を陶冶するやうなものであることが望ましい。それがためには素人演劇運動に携はる人達は次の諸點を注意する必要がある。

- (1) 素人演劇運動は自己の器用さを誇り藝を自慢するための道樂であつてはならない。

歌舞伎の名優の聲色を真似て満座を感心させたり、笑はせたりすること



は集會の餘興でよく見掛ける風景である。われわれが聲色に興ずるのは、人間には元來遊戯本能、模倣本能があるからで、われわれは物真似の中にこの本能を發散させて快樂を味つてゐるのである。演劇はかうした本能が密接に結びついた藝術形式で、これは職業演劇であらうと、素人演劇であらうと變るところはない。演劇のうち、われわれが本來持つてゐるところの本能を満足させるといふことは、何等非難すべきことではないが、單にそれだけに止まるならば、それは一場の餘興と何等選ぶところはないであらう。然るに従來素人演劇には多分にさういふところが見られた。即ち器用に職業俳優を真似、上手に××屋の聲色を使へば、それで満足してゐたのである。そしてまたさういふ風にすることが素人演劇の抑々の理想でもあるかのやうに思つてゐる人が少くなかつた。これは素人演劇としては寧ろ邪道であり、こんなことではわれわれの生活を良くしてゆくことには

ならないといふことをこの際はつきり認識すべきである。

素人演劇は、舞臺に立つて臺辭を述べたり、演技をしたりする裡に、自然に精神的な面においても、肉體的な面においても訓練をうけ、風俗習慣は勿論のこと、日常の舉措、動作、姿勢、話し方等が、知らず識らずのうちによくなつてゆくといふところに眼目を置くべきである。即ち本能の満足に終らずに、その満足を通してわれわれの生活における態度を向上してゆくといふ點に、素人演劇が、單なる娛樂以上の教養手段たる所以があるのである。

(2) 素人演劇運動は決して生活の不満や苦しみを糊塗し、これを逃避せんがための手段になつてはならない。

勤勞から一時解放されて、晴ればれと嬉び楽しむといふことが、心身の疲勞を恢復させる所以であることはいふまでもない。併しわれわれの日常



生活にある不満をごまかしたり、苦しみを忘れるための憂さばらしとして、素人演劇が行はれるのであつたならば、そのやうな娯樂は、生活から切り離されたものであつて、決して健全だといふことは出来ない。生活の困難や不満は、あくまでそれを直視して、その原因を尋ね、それはそれとして解決の方法を見出すのが正しいので、それを娯樂によつて忘れようとしたり、逃避しようとしたりするのは、卑怯な生活態度だと言はなければならぬ。

併しこのことは、素人演劇が、われわれの生活の困苦をどうしたら解決出来るかを教へる手段となることを少しも妨げるものではない。否寧ろ素人演劇は進んでこのやうな解決法の教場となるべきであり、混亂と無秩序に支配されてゐる現在の國民生活に、秩序と統一を齎し、新しい生活様式を造り出すことを教へなければならぬ。さうすることによつて素人演劇

はわれわれを楽しませるばかりでなく、われわれの生活を良いものにしてゆく建設的な面を獲得するのである。

(3) 演劇に興味があるからといつて素人演劇に凝つてはならない。

日本人は、勤勞と娯樂とを切り離して考へてゐるせぬか、或る一つのことに興味を感じると、それに熱中して何もかも忘れて了ふ癖がある。勿論芝居をやつてゐる時、芝居を見てゐる時は、一切を忘れてそれを楽しむがよい。併し、素人演劇運動を始めたからといつて、これに凝つて、働いてゐる時でもそのことばかり考へ、更に進んでは働く時間を犠牲にしてまでこの運動をやるといふのは、本末の轉倒であつて、生活力を培養するといふ素人演劇運動の趣旨に悖るものである。寧ろ逆に、芝居の稽古で夜業が出来なくなれば、翌朝他のものが眠つてゐる中から起きて働いてもその分は取り返す位の意氣込みでやることが大切である。



それからまた素人演劇をやり始めたからといつて、これが唯一無二の娯樂、教養の手段であるかのやうな錯覺に陥つてはならない。素人演劇運動は正しく行はれさへしたら、情操の涵養にも、舉措言語の改善にも、人格の陶冶にも役立つよいものではあるが、これだけがわれわれの生活をよりよいものにし、人格を築いてゆく娯樂なのではないから、思考力を養ふ讀書や、體力を鍛へるスポーツや、その他の有益な娯樂を等閑に附するには當らないのである。寧ろ反對に、素人演劇運動を正しく、方向を誤らないやうに導いてゆくためには、一層それらの娯樂教養手段を尊重することが必要であると思はれる。

(4) 素人演劇運動は、演劇のための演劇運動ではない。

素人演劇運動は冒頭にも述べたやうに、われわれの生活を豊かな、潤みのあるものにして行かうとする新生活運動であつて、それが國民演劇の樹

立に役立つとしても、間接的に、その養分として役立つに過ぎないのであるから、技術的な器用さ、巧妙さなどはこの運動にとつて第二義的なものである。技術的には貧しくとも新生活運動としての本筋を踏み違へないやうにすることが肝心である。勿論技術的にも優れたものであればそれに越したことはないが、藝を自慢せんがために藝を磨くのではなく、より大きな感動をまき起すことによつて、新しい生活への意欲を一層盛んにするために藝を磨くのでなければならぬ。

二、素人演劇運動は集團生活を地盤として展開され、生活の協同化促進に貢獻しなければならぬ。

戦時下の國民生活には、種々の困難や障礙があるであらう。物資も勞力も不足がちであらう。この困難を打開し、現在の非常時局を乗り切るための生活新體制の基本的方向は生活の協同化といふことである。矢を用ひて毛利元就が子



供達に與へた教訓を引用するまでもなく、集團の力が個々の力の算術的な總計よりも大きいことは、既に諸君が協同作業において、協同耕作や協同炊事において、實地に體驗されてゐるところである。協同精神の不足と、集團生活における技術の未熟のために、なほ多くの物資と勞力とが浪費されてゐる日本の現状を改めて、一億一心の體制を整へることは、東亞に共榮圈を確立するための前提條件だといつて差支へない。

素人演劇はこのやうな生活の協同化を促進する有力な槓桿である。何故この運動が協同化の促進に貢獻するかをはつきり理解しておくことは、この貢獻を一層効果あらしめるために必要であると思はれるので、次にその理由を掲げて見よう。

(1) 素人演劇は、その看客が相互に知り合ひであり、同じ生活協同體に屬してゐるために、このやうな運動自體、催物自體が親和の機會を提供して、

#### 協同化の雰圍氣と機縁とを作る。

大都市の商業劇場においては、見物はお互ひに見知らぬ人々である。だから彼等が一つの芝居を見て、同じやうに感動をうけ、同一の感情を持つたとしても、滅多に隣の客に話しかけることはない。われわれは個々別々に感心したり、感動したりしてゐるに過ぎない。ところが素人演劇の場合にはこれと事情が全く異なる。第一に素人演劇が行はれるといふ計畫自體が、村人なり工場員なりの間に反響を喚び起し、話題の中心となるだらう。愈々當日になつて協同體の成員が一堂に會する——これまた親睦のこよなき機會である。芝居が上手であれ、下手であれ、素人演劇は後々までも集團の成員に話題を提供するだらう。かうして素人演劇はこれを楽しむ人達を融和させ、結合させる紐帯になる。

(2) 演劇は繪畫のやうな個人藝術ではなく、多數の人々の協力によつて初め



て可能な総合藝術である。それは單に數人の登場人物を必要とするばかりでなく、衣裳係であるとか、舞臺裝置係であるとか、照明係であるとか、音響効果係であるとか、場内整理係であるとか、會計係であるとか、舞臺に現れない澤山の人々の協力を俟つて始めて可能な藝術である。その意味において素人演劇は、この運動に参加するものの中に協力の精神を養ひ、彼等の集團的行動を訓練する。

だから素人演劇を一部の芝居好きだけが集つてする運動だと考へてはならない。寧ろこれを協同體の全成員の仕事として考へ、芝居の分つた人も分つてゐない人もこれに直接参加させるやうに仕向けるべきである。文學に興味のある人は脚本を搜すがよい。場合によつては自分で書いてみるのもよからう。畫に自信のある人には背景を擔當して貰ふ。大工さんは舞臺裝置を受け持ち、電氣屋さんは照明をやる。お寺のお和尚さんは法衣を貸

すであらうし青年團の幹事さんは場内の整理を擔當してくれらう。珠算の心得のある人には會計をお願いし、裁縫の上手な女の人には衣裳の寸法を合せて貰ふ。かうして集團の成員が全部協同の仕事に参加するならば、運動にも熱意が湧いて來るし、知らず識らずのうちに協同で働らくといふ精神と習慣が養はれて來る。かういふ風に仕向けるのが素人演劇運動の理想であつて、一部の芝居好きだけが集つて、照明には金を出して電氣屋を備つて來るし、背景は大工とペンキ屋に注文して作らせるといふ風にするのは、素人演劇運動としては寧ろ邪道である。

(3) 素人演劇はこれを演ずるものと、看るものとが、同一の協同體に屬してあるといふ點において、職業演劇と本質的に異つてゐる。俳優はこの場合見物の兄弟姉妹であり、親子であり、仲間である。従つて演技者と観客との間には殆ど障壁がなく、登場人物の感情や意志は直接觀客に反映し、演



技者の方へ打ち返されて来る。これが演技者を鼓舞し、彼等の技術を強化する。このやうにして技術は貧しくても、主客が一體となり、同一の感情に浸り、同一の意欲に燃える可能性は職業演劇の場合より遙かに多い。素人演劇において慎重の考慮を以て脚本を選定しなければならぬ理由はここに在る。

素人演劇運動が生活協同化の促進劑たりうる理由は右の三點にあるが、脚本の内容が、集團生活の希望と歡喜とを鼓吹してゐる場合には、一層有力な推進力となるだらう。

ところが今迄素人演劇は、自分のかういふ力を充分に意識してゐなかつた憾みがある。素人演劇が一部の物好きだけの自慰に終つたり、せいぜいよい場合でも、村や工場や學校の餘興の域を脱しなかつたのは、さういふところから來てゐるのである。だからこれからの素人演劇運動は是非とも、どういふ集團生

活を地盤として、何を目指して展開するかをはつきり意識し、一時たりともその目標を見失ふことのないやうに注意しなければならぬ。

素人演劇運動は、集團生活の中に根をもち、それと緊密に結びつくことによつて、演劇がその發生の當初において持つてゐたにも拘らず、今日商業演劇の中において喪失して了つたところの祭典的性質を復興するであらう。といふのは、それが集團生活に結びつかうとするならば、自然に公演日としては收穫の終つて農閑期になつた時とか、工場の創立記念日等を選ぶことになり、さういふ行事の有機的な構成部分となると思はれるからである。集團の成員が、老若を問はず、共に楽しむといふ祭典的性格の復興は將に國民演劇が必要としてゐるところのものであり、その意味において素人演劇運動がこのやうな成果を生み出すならば、それは將來の演劇にとつて一つの大きな收穫である。

三、素人演劇運動はこれに参加する人達の自發性と創意性とを尊重しなければ



ならない。

素人演劇運動が一つの新生活運動であるとするならば、それが職業演劇を模倣したり、それに追隨したりすべきでないことは明白だと思ふ。そこで、それでは素人演劇運動は何故これに参加する人達の自發性や創意性を尊重しなければならぬかといふ積極的な面の理由を掲げてみよう。

(1) 素人演劇は職業演劇が享有してゐるやうな完備した舞臺や、照明設備や、擬音機具を持たない。扮装にしても兩者の間には雲泥の相違がある。従つて素人演劇は、その物質的、技術的な不利を、どうしても参加者達の工夫と發案によつて克服して行かねばならない。そしてまたこのやうに工夫し、努力するところに、素人演劇の面白味があり、この運動がわれわれの訓練になる理由が存在してゐるのである。

といつても何も職業演劇がその長い歴史の間に編み出して來た技術を、

何から何まで無視して了へといふのではない。利用しうべきは大いに利用し、参考とすべきは大いに参考とすべきであるが、それに捉はれることなく、大膽に創意を發揮することが大切なのである。

(2) 素人演劇は、その創造者と享受者、つまり集團の成員の健全な生活感情を表現しなければならぬ。これはこの運動が所期の効果を收めるための基本的條件である。

成員の健全な生活感情を表現するといふことは、彼等の生活を寫實的に寫すといふことと同義ではない。克明に現實生活を寫してゐながら、感情的にはわれわれの生活から遠い場合もある。逆に大昔の物語の中にわれわれの生活感情を盛ることも出来るし、空想的な筋を借りてこれを語ることも大いに可能である。要はわれわれが生活の中で感じる素直な、屈託のない喜びと悲しみ、希望と困苦、感激と憎惡を正しく傳へるといふことが大



切なのである。

ところが素人演劇に参加する農村や工場の勞務者達の生活感情は今まで職業演劇の中には殆どといつていいほど表現されてゐない。職業演劇は元來都市を中心として發達して來たもので、地方の實狀に暗いといふばかりでなく、都市の消費生活を反映して、やゝもすると奇矯纖弱に流れて、勤勞者達の健全な生活感情とはひどく疎隔してゐる現狀にある。また職業演劇は都市の居住者の中でも限られた一部の人々、有閑階級や小市民の個人生活を取扱ふ場合が絶對多數で、潑刺たる産業戰士の意氣などは、よし舞臺に上されることがあつても、甚だ觀念的で、抽象的で、不十分である。それからまた職業演劇は、内容から云つても形式から云つても、化石化した過去の因襲に囚はれてゐるので、昭和の現代戦時下の國民の生活感情にびつたりしない面が多いことも忘れてはならない。

職業演劇の實狀が右の通りであるからして、素人演劇にとつては、開拓すべき分野は殆ど無限に廣大であると謂はねばならない。この運動に参加する人達の自發性と創意性を尊重することによつて、さういふ未開地にとしどし鋤を入れることは、常に素人演劇の健全な發達に必要であるばかりでなく、このことによつて素人演劇は將來の國民演劇への途を準備することになるのである。

- (3) 素人演劇が右のやうに、この運動に参加する人達の生活感情を正しく表現しようと思ふならば、それは必然的に地域的或は職域的特性を尊重し、これを發揚せざるをえない。

雪の多い東北の農民の生活感情と、殆ど雪害を知らない九州地方に住む農民のそれとは、同じ農民の生活感情であるとはいつても、おのづから色調を異にしてゐる。例へば東北の農民が、雪が消え去つて豊穰な大地が肌



を現はす早春に感じる喜びは、到底九州や四國の人達に想像出来るものではない。かやうに個々の地方は地理的條件を異にし、またそれによつて規定される農業技術上の條件を異にしてゐるばかりでなく、長い間の歴史が育んで來た傳統をも異にしてゐるであらう。このやうに考へて來ると、地域的な相違といふものは決して簡単なものでないことが分る。

同様に一口に勞務者といつても、その中には紡績工場に働らく年頃の娘さんもあれば、機械工場で旋盤を操る青年もある。鑛山で鶴嘴を揮ふ筋骨逞しい坑夫もあれば、ダイヤと睨めつこをしながら機關車を運轉してゐる國鐵の従業員もある。職域を異にするこれらの人達が必ずしも同一の生活感情の所有者でないことは、こゝに絮説するまでもあるまい。

かやうに地域を異にし、職域を異にする人達を本當に把へ、たゞ芝居を見てゐる間だけ笑つたり、泣いたりするだけではなしに、それによつて教

へられ、勇氣づけられ、彼等の生活そのものまで變へて行かうといふ位に感激させるためには、どうしても彼等の生活感情をいきいきと、具體的に演劇の中に表現せねばならず、また生活刷新の具體的な方向と手段とを演劇を通じて示さなければならぬ。このやうな迫力は、地域或は職域の特殊性を尊重することによつて始めて生れて來るといふことはこゝに説くまでもあるまい。

殊に素人演劇が協同生活の色々な行事と結びつき、演劇の祭典的性格を恢復しようとする場合には、行事そのものが全國畫一のものではないから、どうしても運動の母胎たる協同生活の特殊性を取り入れざるをえないであらう。

(3) 新しい生活感情は新しい表現技術を必要とする。従つて上に述べたやうに素人演劇がどんどん新しい分野を開拓し、また地域的職域的特殊性を發



揮しようとするならば、表現技術の面においても革新が生れて來なければならぬのは當然である。この表現技術の革新は、素人演劇運動に参加する人達の自發性を尊ぶことによつて一歩一歩築きあげられてゆくであらう。これによつて素人演劇は職業演劇とは異つた美を創造するであらう。

このやうな期待を素人演劇に懸けることは決して不當ではあるまい。といふのは既に述べた通り、素人演劇は、演技者と観客との同質性を根柢として居り、この両者が情意的に一體となる可能性を多分に藏してゐるのであるからして、職業演劇が今まで思ひもかけなかつたやうな技法を案出し、また職業演劇が利用しようと思つても利用することの出來ないやうな特殊條件を活用することが出来るからである。

#### 四、素人演劇は職業化したり、半職業化したりしてはならない。

生活強化のための運動であり、集團生活を基礎として展開せらるべき素人演

劇が、職業化を嚴重に戒めなければならぬことは言ふまでもない。

素人演劇が職業化するといふことは、その地盤である集團の生活から遊離するといふことであり、演技者と観客との同質性といふその本質を抹殺し去ることである。かうなるといふまで自分達の生活をよくしようがための運動であつた素人演劇は、他人のための遊戯になる。そこから生ずるものは技術のための技術であり、技術を見せびらかさんがための演劇が、出演者や協力者達の本來の職業の遂行まで妨げるやうになるであらうといふことは、見易い理である。かうして金のために出演するのでなくとも素人演劇の墮落は容易に起りうるのである。だから素人演劇は、外に正當な理由のない限り、よし好意からであつても濫りに隣近所の村や工場のために出張公演をなすべきではない。

近頃素人演劇のコンクォールに對して加へられるやうになつた反省もこの點に基づいてゐる。本當に優秀な素人演劇といふのは、集團の生活を豊かにし、こ



れを向上させるといふ實際的な効果をあげてゐる演劇である。然るにコンクールは素人演劇をその母胎である各生活協同體から一應切り離した形で展開するからして、如何に良心的な審判者と雖も、脚本の優劣や演技の熟未熟をたよりにして判断を下す弊に陥りやすい。かくしてコンクールは素人演劇運動を生活運動から演劇のための運動へ逸脱させる危険性がある。従つてコンクールは、素人演劇運動を盛んにし、鼓舞し、それがまだ行はれてゐない地方に擴大するために必要な手段ではあるが、この開催に際しては、批判的な態度を失つてはならない。

以上を結論的にいへば、素人演劇にとつては、その中で協力者や看客が自己を訓練し、生活を向上させてゆく運動が問題であつて、演劇といふ藝術それ自體が問題であるのではないといふことである。

## 素人演劇運動の方策

新しい素人演劇運動の進むべき道は、「素人演劇運動の理念」の中ではつきりと説かれてゐる通りである。

ところが、現在方々で行はれてゐる素人演劇をみると「素人演劇運動の理念」の方向に沿つてゐないものが、随分多い。

昨秋、大政翼賛會文化部が配布した「素人演劇（演藝）現状調査表」の結果を見ても現在の素人演劇運動に種々雑多な流れが含まれてゐることが明瞭に判る。

素人演劇運動を具體的に展開して行く上には、是非素人演劇運動の現状を知つて置く必要があると思ふので、非常に大ざつぱりではあるが、現状に觸れて



みよう。

「素人演劇(演藝)現状調査表」の結果によると、現在の素人演劇の流れを大體次の五つに分けることが出来ると思ふ。

- (一) 地方に於ける演劇好事家の集りで、主として過去の村芝居の系統を引いたもの。
- (二) 農村、工場等に於ける集會の餘興として生れたもので、レザユール、劔劇、歌謡曲、漫才等の影響が濃厚に現れてゐるもの。
- (三) 地方の傳統的藝能(主として、地方能、踊り、神樂等)の復活を目指すもの。
- (四) 地方都市、工場等の文學青年、又は演劇青年のグループから生れたもので、所謂「新劇」の影響を受けてゐるもの。
- (五) 「素人演劇運動の理念」に示された理想に近いもので、はつきりと演劇に

よる國民の生活力培養を目指すもの。

以上五つの流れの中で、現在最も多く行はれてゐるものは、(一)と(二)であつて、(三)と(四)は非常に部分的で問題にならない程度であり、(五)は最近に至つて徐々に起つて來た傾向で、現在のところではまだ微力である。

さて、素人演劇運動の指導に當る場合、全然白紙の状態にあるところでは、無論(五)の方向を目指して進めばよいのは判り切つたことであるが、實際問題としては、白紙の状態から運動を始めると云ふことは殆んど考へられないこととで、大抵の場合(一)(二)(三)(四)の中のどれかの傾向を持つた運動が既に存在するところで仕事をせねばならぬことが多い。で、指導者は既存の運動の性格をよく見極めて、これを適當に(五)の方向へ發展させて行くことに努力せねばならぬのである。

(一)の流れに屬するものの演目は、大體、歌舞伎、浪花節芝居、劔劇等であ



つて、殆んど半職業化してゐるものが多い。大抵の場合、その中心分子は半女人であり、半職業劇團と見なしてよいやうな活動方針をとつてゐるものが大部分である。この流れに屬する劇團の中には、他村や他の職場への出張公演を相當専門的に行つてゐるものがあり、演目の準備、プログラムなどもちやんと出来てゐて、中には引札に類するやうな挨拶状を印刷し、どうか御利用を願ふと云ふ風に廣告してゐるものさへある。公演費用も所謂「御祝儀」又は「祝儀花」等の名目で主催者側から貰ふ金で賄つてゐるものが多い。

このやうな半職業劇團の目指すところが、「素人演劇運動の理念」と遠く離れたものであることは、改めて説く必要もあるまい。既に、すつかり半職業的になり切つたものは、素人演劇運動と切り離して、これを考へた方がよい。従つて、農業團體、産業團體、地方自治體、又はその他の公共團體地方支部等が、このやうな半職業劇團を後援することは差し控へた方がよいのではないかと思

はれる。地方に娯樂が不足してゐるために、やむなくこれらの半職業劇團を利用する場合でも、演目並びに劇團員の行動等に對して嚴重な批判を加へることを忘れてはならない。

(二)は、集團生活を基礎として生れて來たものだけに、適切な指導を加へれば、健全な方向へ發展して行く可能性を十分持つてゐる。たゞ現状では、職業的な演劇や演藝を無批判に模倣する傾向が強く、演目内容もともすれば低調浮薄になりがちで、卑猥な歌謠曲や漫才の眞似事を並べたてて満足してゐるやうな場合が多い。これでは、一時のお祭り騒ぎに終るだけで、村や職場に決して、影響を與へないから、村や職場の健康な生活としつかり結びついた組織として發展させて行くやうに考慮を拂ふ必要がある。

(三)の地方の傳統的藝能の復活を目指すものは、内容は健全なものが多いが、ともすれば半職業化しようとする危険性を持つてゐるので、この點に留意して、



指導に當らねばならない。

(四)は、村や職場の生活と遊離して、やゝもすると藝術の名をかりた獨善に終り、青年達の自慰的な遊戯に陥りがちで、もしさうなると、反つて有害な場合が多いから、指導に際して、特に細心の注意を要する。

これらの現在の素人演劇運動の色々な流れを概観してみると、その缺陷の原因が、どうも共通であるやうに思はれる。

即ち、素人演劇運動が、生活に根を下した色々な組織(例へば産業組合、青少年團、産業報國會、翼贊會、町村會等々)と全然離れて行はれてゐるやうな場合には、ともすれば、諸種の弊害を生みがちである。

そこで、素人演劇の指導に當る人々は、この運動を、生活に根を下した色々な組織と密接に關聯させて發展させて行くことを第一に考へなければならぬ。言葉を換えて云ふと、素人演劇を健全に發達させるためには、地方の生活に

根を下した色々な組織や機構の首腦部の諒解と適切な指導の下に、これを組織運営して行くことが絶対に必要なのである。

これらの首腦部の諒解なくして、素人演劇運動を行はうとすると、ともすると同好の士を集めただけのものになりがちで、一時的な趣味の満足に終ることが多く、時によつては世の誤解を招き、不測の障害に遭はないとも限らない。

従つて、地方や職場の集團生活から孤立した素人演劇運動は、絶対にこれを排斥すべきである。

即ち、これから新しく素人演劇運動を起す場合には、必ず村や職場の生活に根を下した一組織(例へば、産組支部所屬の演劇部とか、青少年團支部文化部内の演劇班とか、産報支部演劇班とか、大政翼贊會支部の演劇部とか、町會の演劇部とか云ふ風に)として發足すべきである。

既に組織されてゐる素人劇團で村や職場の集團生活と何の關係もないやうな



ものは、この際一應解體して、集團組織の中に融けこんだ組織として再發足した方がよい。

素人演劇運動を起さうとする人達の努力にも拘らず、村や職場の指導者達が文化運動に對して無理解であり、素人演劇運動をどうしても肯んじないやうな場合には、無理押しをして素人劇團を作る必要はない。

「素人演劇運動の理念」の中で説かれてゐるやうに、素人演劇運動の第一の目標は、國民生活の強化刷新と云ふところにあるのであつて、劇團行動を起したり、舞臺の上に立つたりすることが最終の目的ではないのであるから、素人劇團の組織が反つて、村や職場の融和協力を阻害するやうな危険のある場合には、寧ろこれを差し控へた方がよい。このやうな場合には、既存のものでも深く解體して、後の「活動方法」の項で説くやうな諸種の運動方法により、戦時下に於ける文化運動の必要さを、集團生活の指導者や一般の人々に徹底させ、決戦

體制下では娛樂や慰安は不必要であると云ふ考へ方を是正して行くことに努力すべきである。

又、村や職場の指導者達は、村や職場に起つて來た素人演劇運動が正しい目的を持つたものであるか、それとも時局に便乗した好事家や文學青年の集りに過ぎないかをよく見極め、これを正しく指導して行くやうに注意を拂つて頂きたい。

特に、今迄素人演劇運動のなかつたところで、この運動を新しく起さうとする際には、中央の經驗者達とも連絡をとつて、萬全の注意をもつて、事に當るやうにして頂きたいものである。

#### 一、組織

素人演劇運動が村や職場全體の生活とピッタリと結びついて進んで行かなければならぬものであることは、前にも説いた通りである。そこで、素人演劇運動



の組織も、村や職場全体の組織と密接に結びついたものでなければならぬ。  
村や職場の生活全體を指導して行く組織がちゃんと一つに纏つてゐて、よく云はれる強固な生活協同體と云ふものが確りと出來上つてゐれば、素人演劇の運動も文化的な仕事の一つとして、當然これに所屬してゐるべきものである。  
ところが、現状では、この生活協同體と云ふものがまだしつかり出來上つてゐるわけではない。農村には、色々の農業團體や教化團體やがあつて、經濟や政治や文化や色々の分野を擔當して生活の指導に當つてゐるし、工場、鑛山等の職場でも、産業報國會が一本立で、總ての生活指導に當ると云ふところまではまだ來てゐない。

だから、現在のところでは、農村や職場の生活に強く根を下してゐる産組、産報、青少年團、翼贊會等々の組織の一部門として素人演劇運動を進めて行くのが、最も妥當である。即ち、青少年團××支部文化部演劇班とか××産業報

國會演劇部とか云ふ風にして素人演劇團を組織するのである。芝居好きなものだけが集つて、××劇團とか○○劇團とか云ふものを作ることは避けた方がよいことは、前に何度も説いたところからみて、既に明かなところであらう。

素人演劇團そのものの組織は、なるべく單純で簡明な方がよい。

例へば、平常は文藝部、教育部の二つ位に分けてあれば、十分事が足りよう。唯、公演を行ふ前後には、ちゃんと體制を整へて、十分の効果を發揮しなければならぬ。

前にも書いたやうに、素人演劇運動に於いては生活の強化刷新が、その主たる目的なのであるから、公演に際しても、舞臺上の成績にのみとらはれてはならない。舞臺に立つ人々と見物する人々とを合した集團全體に與へる影響と云ふものを深く考慮しなければならぬのである。

従つて、公演の際の組織としても、演劇關係又は文化關係の人々だけでは不



十分である。集團生活の全體に互つて眼を配る村や職場の指導者が、數人、演劇世話人とでも云ふやうな形で、公演の總指揮に當る必要がある。

この公演總指揮者の下に、一方には舞臺上の成果について責任を持つ演劇指導者を中心とした文藝部、演出部等の一群があり、他方には觀客の動員、整理、教育等に當る觀衆動員部とも名づくべきものを置き、その他に公演總指揮者に直屬した會計部を置くことが出來れば、現在としては先づ理想的な形態であらう。試みに公演時に於ける組織形態の一例を左に圖示してみよう。



公演總指揮者  
(村や職場の指導者)



も一度繰返して云ふが、こゝに圖示したものは、讀者にはつきりした觀念を與へる便宜上示したほんの一例に過ぎないのであつて、地方により職場により、



各々工夫をこらして「素人演劇運動の理念」の方向に沿つた組織を考案して頂きたいのである。

## 二、活動方法

素人演劇では、半職業化の危険を避ける意味からも、亦勤勞者の時間的餘裕の點から考へても、餘り公演を繰り返さない方がよい。一年に一回乃至二回が適當であつて、多い場合でも四回以上には互らない方がよい。

その公演も、唯芝居をやつて見せると云ふのではなくて、「素人演劇運動の理念」の中に説かれてゐる「演劇の祭典的性格の復活」と云ふ點と結びつけて考へて頂きたい。即ち、村や職場の色々な行事と結びつけて演劇公演を行ふやうにした方がよい。行事と云つても地方により職場によつて色々異つてゐようが、例へば、お正月とか、お盆とか、神社の祭禮とか、國家的な祭典とか、村や組合の記念日とか云ふ全村的又は全職場的なものを對象として考へた方がよ

5。

これらの行事に際して、素人演劇を公演することが決定したら、早速素人演劇團は村や職場の指導者と相談して、前の項で説いたやうな公演體制を整へるのである。公演までの日数は相當みて置かねばならないが、脚本決定後二十日乃至三十日位あれば、まづ理想的であらう。

脚本決定とともに、演劇指導者は、演出者、舞臺監督、配役、舞臺裝置等々の役割を定めて、直ぐ稽古に掛る準備をする。脚本係は脚本の騰寫、誤字の訂正その他の準備をし、稽古の手順に狂ひのないやうにする。そこで演出者の指揮の下に、本讀、讀合、立稽古、舞臺稽古等の順序で、稽古を進めて行く。

稽古の方法は、職業演劇の稽古方法に關する色々な書物も出てゐることだから、それらを参考にした上で、銘々工夫をこらして素人演劇らしい獨特のものを工夫して頂きたい。演出者は、演劇指導者とも、よく相談して稽古が規律正



しく而も和やかに運ぶやうに心を配る必要がある。

稽古と併行して、会場設備係は観衆動員係と協力して、豫想される入場者數に従ひ、會場の決定及び設備を行ふがよい。豫め、來賓席、子供の席、老人席、母と赤ん坊の席、壯青年の席、女子の席等々を極めて置く方がよいであらう。當日になれば、公演はちやんと定刻に始めて、而も着席等も秩序よく行はれるやう、観衆動員掛、場内設備掛で十分の手配をしておかねばならない。かう云ふ機會を利用して、時間の觀念、秩序の觀念を植ゑつけて行くのも、素人演劇運動の一つの仕事である。

公演の前に「國民儀禮」即ち「皇居遙拜」「出征將兵の武運長久の祈願と英靈への感謝默禱」及び「國歌齊唱」を行ひ、公演終了後「聖壽萬歲」を三唱して閉會することは、是非必要である。かうすることによつて、公演中は楽しく演劇に興じ、而もその前後にはつきりとけじめをつけることが出来るからである。

文藝部の研究係は、公演中観衆席の中にあつて、観衆が舞臺からどんな感銘を受けてゐるかをよく研究して、今後の脚本選擇の資料としなければならぬ。

公演終了後、會場の掃除や、方々から借りた物品の返却等に萬遺漏なきを期する必要があることは云ふまでもない。その外に観衆動員部の調査係は、その公演が村や職場の人々にどんな影響を與へたかを調べ、文藝部の研究係と相談して、この次の公演の参考とするやうにしたい。

公演が終ると、素人演劇團は公演體制を解いて、文化部の一部門として、文藝部、教育部位からなる單純な組織に返り、演劇的な面を通じて、生活協同體の文化活動に参加するのである。このやうな平常の活動としては、村又は職場の青少年達を相手とした脚本朗讀會或ひは詩歌朗讀會、隣組常會への簡單な餘興の提供等、種々のものが考へられる。脚本朗讀會によつて、村の青少年達の知識水準が上つたり、正しい日本語を學ぶことに對する興味が起つて來たりし



た事例もあるから、これらの活動は決して輕視出來ないのである。

素人演劇團の常時の活動で注意すべきことは、地方廻りの職業劇團などから助演を頼まれた場合の處置である。これは、相手がたとへ素性の知れた立派な劇團であつても、絶対に参加してはならない。

もし放送を依頼されたやうな場合があつても、勤勞の妨げとなるやうな場合は出演を斷るべきである。

優勝旗や賞金につられ、濫りに演劇コンクールに参加することも避けた方がよす。

まして、他村や他の職場から出演を頼まれ、「祝儀花」をあてにして、出張公演を行ふやうなことは、斷じて行ふべきではない。他村や他の職場と一緒になつて、公演を行ふ場合は、お互ひの村やお互ひの職場の親睦を目的とした特別の場合にのみ限るべきである。

尙、素人演劇運動と云ふものは根氣よく續けて始めて効果のあるものであるから、線香花火式な一時のお祭騒ぎに終らぬやうに、長期戦の決心で、この運動に従事して頂きたい。

それから、大政翼賛會の指導下にある文化團體のある地方では、これと十分の連絡をとつて活動した方が、色々便利であると思はれる。

### 三、脚本の擇び方

素人演劇に於ては、上演脚本の擇び方が特に大切である。

職場や農村に必ず一人や二人はある、文學好きの人達や演劇愛好者連の文學的な趣味や好みで擇んではいけないし、それかと言つて村や職場の指導者だけで脚本の教化的な意義だけを重んじて、脚本を擇ぶのも危険である。

そこで、脚本選定に當つては、村や職場の指導者達の中の二三名と、素人演劇團の文藝部の人々數人が集つて脚本選定委員會とでも云ふやうなものをこし



らへ、こゝでよく相談し合つて極めるのが理想的である。この脚本選定委員会の相談の資料となる脚本の素材や、既に書かれた脚本やを、参考のために準備して置くのは、勿論文藝部の仕事である。

大體、農村や工場には、戦地で奮闘した友人の手柄話とか、隣組の銃後美談とか、郷土の傳説、郷土の偉人の話、先輩の苦心談等々脚本の素材となるやうな話はいくらでも轉つてゐる筈である。だから、出来れば、脚本選定委員会で次の公演の時期や性質やをよく考慮した上で、これに適した素材を擇び出して、これを文藝部の誰かが脚本に纏めあげると云ふ風にしたいものである。

尤も、脚本は日記や記録と違つて、誰にでもすぐ書けると云ふものではないから、専門劇作家の作品中から適當なものを選び出して上演するのもよい。併し、出し物が二つなり三つなりある場合には、その中の一つは必ず自分達仲間内で作つた脚本を上演するやうにした方がよい。素人脚本は、専門劇作家の書

いたものより、たとへ技術的には劣つてゐても、村や工場の人達の氣持にピッタリ合つてゐることが多く、それに専門劇作家には見られないやうな獨創性を持つてゐることが往々あるからである。

#### 四、演劇指導者

現在の素人演劇の状態から観ると、村や職場に偶然歌舞伎や新派の大部屋にゐたことがあるとか、都會の新劇に關係してゐたことがあるとかした人がゐるとそれだけの理由でその人が、素人劇團の指導者に祭り上げられてしまふやうなことが多い。この人が「素人演劇運動の理念」に説かれたやうな理想をはつきりつかんで居り、自分の過去の生活を十分批判し盡してゐる人ならよいが、さうでない場合には、かつて自分が大部屋から見た座長の眞似をして自己満足に耽つたり、新劇的な藝術至上主義に溺れたりして、劇團をとんでもない方向へ引つ張つて行く危険がある。



従つて、過去に芝居の経験のある人を、簡単に素人演劇運動の指導者とすることは考へ物である。それよりも、素人演劇運動の指導者としては、たとへ芝居の経験はなくとも、日常の生活態度が立派で、皆から尊敬されて居り、而も、文化運動に對しても深い理解力を持つて居ると云ふ風な人がなる方がよい。舞臺の経験のある人も、素人演劇が職業演劇とは違つたものだと言ふことをはつきりと認識し、自分は素人演劇には全くの素人だと云ふへりくだつた氣持になつて、白紙に立ち返り、職業演劇のいたづらな模倣を出来るだけさけて、勤勞生活の新しい體驗が、演技のすみずみにまで潑刺と感ぜられるやうに、努めて欲しい。

田舎廻りの職業劇團の俳優を招いて指導を受けることは無論避けるべきである。もし一流の俳優から指導を受けるやうな場合があつても、職業演劇の演技を轉飲みにせず、職業演劇のよいものは採り、悪いものは棄てると云ふ十分批評

判的な態度でのぞむべきである。

尤も、素人演劇の現状から見て、農村や工場で獨自に自分達の道を切り拓いて行くと云ふことは中々困難であらうから、中央から適當な講師を招いて講習を受けることが、どうしても必要なことがあらう。併し、かう云ふ場合でも個人的に知合の人を講師として連れて來るやうなことをせず、自分達の所屬してゐる農業團體、産業團體、教化團體等の中央部を通じて、講師を招聘した方がよい。

## 五、經費

素人演劇は、經濟的利益を目的としないことが、その特質である。これに反して、商業演劇は、利益を上げることが目的である。素人演劇は、どこまでもこの公共的な目的を失つてはならない。

従つて素人演劇は、なるべく費用をかけないことが原則である。最少限度の



費用で、最大限度の効果をあげることを考へなければいけない。

大政翼賛會文化部に集つた「素人演劇(演藝)現状調査表」によると、一回の公演費が五圓位のものから二百五十圓位のものがある。五十圓以上を支出してゐるものは、大抵寄附又は「祝儀花」等によつて、これを捻出してゐる。

一回の公演に五十圓以上の支出は、どう考へても多すぎる。なるべくは二三十圓程度ですますべきであり、出来れば大道具、小道具、衣裳等を自分達で工夫して、ありあはせの物で間に合わせるやうにし、現金支出をしないやうにしたものである。

そして、やむなく支出を必要とする公演費用及び平常時の活動費用は、地方の公共團體、教化團體等(工場鑛山なら産業報國會)からこれを支出して貰ふやうにすべきである。

今までの一般の村芝居のやうに、經費を出演者がもちよつたり、「祝儀花」を

目當にしたりすることは、避けた方がよい。新しい素人演劇は、出演者だけのものではなく、村や職場全體のものであるから、その村や職場の組織に費用を負擔して貰ふやうにするのが、一番よいのである。

村や職場の指導者達が、素人演劇に對する理解の無いところでは、これは困難なことかもしれない。併し、それだからと云つて、「祝儀花」や出演者の持ちよりで公演しようとするれば、これは結局芝居好の人々の道樂仕事に終つてしまふ場合が多いのである。だから、あくまで村や職場の指導者が素人演劇運動に理解を持つてくれるやうに努力し、その上で公演を行ふべきである。それまでは、無理に金を集めて、素人演劇の公演を持ち必要はない。

村や職場からの寄附も、素人劇團として集めてはいけない。村や職場の有志が素人演劇運動に理解を持ち、寄附してくれるやうな時も、一應劇團の所屬してゐる組織(即ち青少年團支部、産組支部、産報支部等々)へ寄附して貰ひ、



そこから素人劇團への支出金として受取るべきである。

尙、素人演劇の公演には、原則として入場料をとらない方がよい。特別な場合で、場内整理費をとる必要が生じたとしても、決して一人十銭を越えてはならない。

## 附 録

### 素人演劇用脚本

参考までに、素人演劇用脚本として、現在發行されてゐるものの書名又は題名を次に掲載する。と云つても、これらのものの總てが、素人演劇用脚本として、理想的なものだと云ふのではないから、その點はよく考慮して使用された。既成の脚本を使用する場合には、よく内容を吟味し、その内容が、村或ひは職場等の現在の生活状態に適合するものかどうかを見極めてからにして頂きたい。素人演劇用脚本を文學的な好みからのみ擇ぶのは、最も危険である。既成の脚本は戯曲としては纏つてゐても、村や職場の特殊な事情に合はぬところもあらうから、さう云ふところは改訂を加へて差支へないと思ふ。



既に書物や雑誌に発表された脚本を使用する際には、作者に一應諒解を求め  
ることが是非必要である。これは、作者に直接手紙を出して素人演劇用脚本と  
して使用したいから御許可を得たいと云つてやつてもよいし、もし作者の住所  
その他が不明な場合には

東京市麴町区内幸町二丁目一 大阪ビル新館

日本文化中央聯盟文化事業部

へ問合せれば、斡旋の勞をとつてくれる。

○田園劇脚本集 (産業組合中央會編)

昭和十年三月産業組合中央會(東京市麴町區有樂町一ノ二)發行・定價三十錢

家の柱 (一幕)  
森の家 (一幕)  
牛を賣る (一幕)

清水準藏  
池田倉八  
浪房伸

土を守る人々 (一幕)  
ある村長の娘 (一幕)  
山へ行く弟 (一幕)  
一本杉 (一幕)

上山房吉  
野口涼一  
野地篤之助  
福森露子

○青年戯曲集 (大日本聯合會青年團編)

昭和十年十月日本青年館(東京市明治神宮外苑霞ヶ丘口)發行・定價四十錢

首途の赤飯 (一幕)  
故郷の人々 (一幕)  
野道 (一幕三場)  
義農作兵衛 (二場)  
和尚と天狗 (二場)  
吉田先生 (二場)  
牧山曹長 (一幕)

竹田敏彦  
竹田敏彦  
賀川豊彦  
小寺融吉  
小寺融吉  
小寺融吉  
吉田絃二郎



隣 人 愛 (二幕)  
土 に 咲 く (二場)

浪 房 伸  
永 田 衡 吉

○戯曲集 善人村 (吉田絃二郎著)

昭和十五年六月日本青年館發行・定價七十錢

元 帥 大 山 巖 (二幕三場)  
孤 島 の 兵 營 (二幕二場)  
赤 革 の 靴 (二幕三場)  
山 峽 (二幕二場)  
牧 野 原 異 變 (二幕二場)  
善 人 村 (二幕)

○戯曲集 一握の種子

昭和十五年十二月 日本青年館發行・定價八十錢

別 れ の 國 旗 (二幕)

伊 藤 松 雄

梅 津 中 尉 の 手 紙 (三景)  
時 の 掟 (一幕)  
な だ れ (一幕)  
鐵 砲 記 (一幕)  
出 征 (二幕三場)  
教 へ 子 (一幕)  
一 握 の 種 子 (一幕)

林 二 九 太  
小 出 英 男  
眞 船 豐  
土 井 逸 雄  
原 巖  
飯 島 與 志 雄  
青 江 舜 二 郎

○青年と子供のための脚本集 (日本文化中央聯盟編)

昭和十五年五月日本文化中央聯盟(東京市麴町區内幸町二ノ一ノ三大阪ビ  
ル新館内)發行・定價一圓七十錢

田 植 唄 (二景)  
曉 (六景)  
肇 國 (十景)

武 井 一 男  
秋 月 桂 太  
片 浦 謙 三



夜明けの子供 (五場)

素人劇について

田植唄の演出について

児童劇の演出について

○國民娛樂脚本集

(第一輯) 昭和十五年二月國民精神總動員中央聯盟發行

素人劇の手引き

故郷 (二幕)

もんべ村 (二幕)

母ぎみ (二幕二場)

闇箱 (三景)

木炭日記 (二幕)

櫻咲く丘の上に (二幕)

山田浩

飯塚友一郎

園池公功

岡田八千代

園池公功

大島萬世

和田勝一

藤森成吉

上泉秀信

龜屋原徳

田郷虎雄

十三塚の義人 (二幕三場)

峠 (二幕)

馬越ケチ藏 (喜劇一景)

舉國前進大號令 (二幕)

(第二輯) 昭和十五年十月國民精神總動員本部發行

素人演劇の理想

七草旅行 (五場)

理想の良人 (二幕)

勇士愛 (二幕)

雷雨 (二幕)

ある日の水戸黄門 (二幕)

美しき村 (二幕)

おふくろ (二幕)

永田衛吉

坂中正夫

久板榮二郎

伊藤松雄

藤森成吉

北村壽夫

岡田禎子

上泉秀信

田郷虎雄

小山祐士

北條秀司



豚 (一幕)  
素人劇の手引き  
舞臺用語の解説

中村吉藏  
園池公功

右國民娛樂脚本集は最近迄大政翼賛會宣傳部で取扱つてゐましたが此の程二輯とも品切に  
なりました。

○公共劇小脚本集

昭和十五年十二月モダン日本社(東京市麴町區内幸町大阪ビル内)發行  
定價一圓五十錢

公共劇上演の手引き  
雷 雨 (一幕)  
團 箱 (三景)  
隣組第五群 (四景)  
二人三脚 (二景)

園池公功  
上泉秀信  
上泉秀信  
上泉秀信  
北村壽夫

つはもの還る (一幕)  
輝く建設 (二場)  
母 ぎみ (二場)  
愛國回覽板 (三景)  
將軍の寶 (二場)  
小さい裏切者 (一幕)  
青年道場 (四幕)  
判官切腹 (一幕)  
警鐘臺が建つ (四場)

大島萬世  
大島萬世  
藤森成吉  
田郷虎雄  
田郷虎雄  
田郷虎雄  
山村四郎  
武者小路實篤  
松田甚次郎

○常會用脚本集 (演劇懇話會編)

昭和十六年六月佃書房(東京市京橋區横町一ノ七)發行・定價一圓三十錢

愛國歌手紙 (一幕)  
もゝ栗三年 (一幕)

小野金次郎  
瀧川駿



隣の三太 (二幕)  
 明日も晴天 (二幕)  
 人生春秋 (二幕)  
 空地栽培 (二幕)  
 妹 (二場)  
 冬暖し (二幕)  
 木馬集三番目 (三景)  
 喜平老人と猫 (二幕)  
 笛 (三場)  
 小諸塾 (二景)  
 演出に就いて

吉田與志雄  
 高島貞夫  
 川口昇  
 升本幸喜  
 近藤久  
 長谷川秀夫  
 大根参屏  
 安井彌生  
 後藤毅  
 菅原寛  
 奥野夢郎

○勤勞者の作つた演劇

昭和十六年九月栗原紡織産業報國會(東京市本所區横川橋五ノ一)發行

非賣品

工場演劇の體驗から 一序にかへて一  
 門出  
 はたらく喜び  
 理想の妻

栗原勝一  
 尾崎徹  
 青木清江  
 山田享

兒童劇

○坪内逍遙

兒童教育と演劇

大正十二年早大出版部發行・定價一圓八十錢  
 家庭用兒童劇(春陽堂少年文庫)

○伊達豊  
 昭和八年春陽堂(東京市日本橋區通三ノ八五)發行・定價二十五錢



イソップ 兒童劇

昭和八年四條書房發行・定價三圓五十錢

○久保田 萬太郎

一に十二をかけるのと十二に一をかけるのと(少年少女劇集)

昭和十二年中央公論社(東京市麴町區丸ノ内丸ビル五八五區)發行

定價三圓三十錢

素人演劇用脚本を所載する雜誌

○開拓(新滿洲改題) (二十錢) 麴町區一番町一九ノ二滿洲移住協會

○家の光 (二十錢) 麴町區有樂町一ノ二「産業組合中央會」

○文化日本 (二十錢) 麴町區内幸町二ノ一ノ三大阪ビル新館日本文化中央聯盟

○青年 (二十錢) 四谷區明治神宮外苑霞ヶ丘口「大日本青少年團」本部

○農村文化 (三五錢) 麴町區有樂町一ノ二「社團法人農山漁村文化協會」

一般演劇雜誌

○現代演劇 (五十錢) 大阪府吹田市千里山一五三番地 現代文化社

○國民演劇 (六十錢) 東京市麴町區麴町一(井田ビル内)牧野書店



425  
235

近刊豫告

大政翼贊會文化部編  
大 詔 奉 戴  
定價 十 錢 千 四 錢

地 理 の 書  
詩歌翼贊第一編改版  
定價 十 錢 千 四 錢

常 盤 樹  
詩歌翼贊第二編改版  
定價 十 錢 千 四 錢

大政翼贊會文化部編  
狸 眞 船 野 著  
定價 十 錢 千 四 錢

金子洋文著  
白 梅 記  
定價 十 錢 千 四 錢

昭和十七年三月十日印  
昭和十七年三月十五日發行  
昭和十七年九月一日再版印刷  
昭和十七年九月十五日再版發行(五千部)

素人演劇運動の理念と方策  
定價 金 二 十 五 錢 〇

不許複製

(出文協承認)  
あ 80025

編纂者 大政翼贊會文化部  
右代表者 ヒビノシロウ

發行者 東京市神田區駿河臺四丁目二番地  
翼贊圖書刊行會

印刷者 東京市京橋區銀座西二ノ三  
三協印刷株式會社  
(東東五九) 高橋 郁

發行所 東京市神田區駿河臺四丁目二番地  
翼贊圖書刊行會

配給元 東京市神田區淡路町二ノ九  
日本出版配給株式會社

日本出版文化 一三八五〇八番  
協會會員番號  
梅野口座東京四三六八〇番



終

